

岐阜県立大垣桜高等学校（発表者）

服飾デザイン科3年 下條梨嗟 中村遠見 林美沙季

古野初姫 夏原加奈 松井瑠美

食物科3年 宇野瑞希 船坂真歩

1. 事業の概要

本校では、服飾デザイン科と食物科の二つの学科において研究を進めています。服飾デザイン科は、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力、確かな知識・技術を育成するとともに、グローバルな視野からものづくりやビジネスを捉え、総合的にファッションを世界に発信することができる、ファッションビジネスリーダーやグローバルファッションクリエイターを育成することを目指します。食物科は、岐阜県内で県立高校唯一の調理師養成施設として、高度な調理知識・技術と豊かな感性を身に付け、食文化の伝承やより良い暮らしを支え、「食」の企画・提案ができるフードクリエイターを育成することを目指します。

2. 具体的・特徴的な実践内容

(1) 地元企業や関連機関とのコラボレーションによる商品開発

①命を守るファッションとアイテム提案・安全啓発・普及活動

岐阜県警察本部や日本反射材普及協会と連携して、反射材を使用したオリジナルエンブレムをデザインし、全校で命を守る制服を着用しています。SAKURA ブランド reflection として、色々なアイテムを普及しました。また、反射材テープを織り込んだオリジナルテキスタイルを作製し、その生地を使用した洋服や袋を作りました。これらを活用し、交通安全啓発活動を行いました。



②ぎふ長良川鵜飼装束の提案・アイテム製作・商品開発

1300年の伝統ある長良川鵜飼の歴史や鵜匠装束の特徴について学習し、この文化を多くの人々に伝えたいと思い、創作鵜飼装束を作りました。鵜飼装束は長年改良を繰り返し、素材の特性を生かして機能性を重視した衣装であることを十分理解することができました。私たちが制作した創作鵜飼装束は岐阜市内施設に展示して、ぎふ長良川鵜飼のPR活動のために使用しました。



また、Ukai コレクションの提案を行いました。夜の水面に揺れる、鵜飼のかがり火をイメージしたテキスタイルデザインを提案し、オリジナル生地を尾州の機屋で制作しました。その生地で、ぎふ長良川鵜飼をコンセプトにした、シックで豪華な Ukai コレクションを提案しました。生地を効果的に使う検討を重ねることにより、デザイン力や発想力、創造力が身に付きました。



鵜飼見学のお客様にお土産品として、清流長良川を泳ぐ鮎をイメージしたジャガード織のネクタイや鵜匠の腰蓑をイメージしたポーチ、A4サイズが入る鞆を提案しました。作品を鵜匠の方やデザイナー、クリエイターに評価して頂き、完成度を高めました。商品の提案を通して、企画力、マネジメント力、プレゼンテーション力が身に付きました。今後は、商品を継続的に作る企業との連携を進めていきたいと考えています。



③鮎を使用した商品開発

世界農業遺産「清流長良川の鮎」の食文化と料理の研究を行い、「鮎わっぱ寿司」を提案し、販売しました。鮎の特徴を捉え、様々な調理技法による鮎料理の研究を行い、消費者ニーズや製造工程、衛生管理、生産販売等を考えました。更に、試食後のアンケート結果から改良を重ね、商品の品質を高めるとともに、販路を開拓し、専門店での販売に向けて取り組んでいます。



④地域食材の研究

JAにしみのと連携し、地元ブランド鶏肉と豚肉、地元野菜を使用したメニューを提案し、精肉店や高速道路サービスエリアのレストランで料理を販売しています。この提案、提供を通して企画力、表現力、プレゼンテーション力が身に付きました。



⑤米粉を使ったお菓子の研究

岐阜県には幻の米「ハツシモ」があります。その米粉を利用したお菓子の研究を行いました。岐阜女子大学で米粉の特性を科学的に分析し、地元野菜を加えたケーキを提案しました。また、朝日大学と連携してプレゼンテーションとマネジメントについて学習し、地元製菓店で製造、販売を依頼しました。さらに、老舗製菓店で「ひめシュー」と「桜まかろん」を販売しました。製菓店と話し合いを重ね、完成度の高い作品となりました。今後はコンビニエンスストアと提携を結び、コンセプトワークやマネジメント、衛生管理を更に身に付け、スイーツを販売する予定です。



(2) 国際感覚とコミュニケーション能力の育成

服飾デザイン科では、世界15カ国に22校展開するファッションの専門学校エスモードパリ校でデザイン発想の授業を受講したり、日本からの留学生やパリの学生と交流会を行ったりしました。パリで学んだデザインの発想法は、画期的で発想の幅も広がり、大変効果的な研修でした。帰国後、パリでの学習について3年生が2年生に伝達講習会を行い、研修内容を共有しました。



食物科では、短期留学生と交流会を行い、調理実習を通して地域食材や日本料理、食文化を紹介し、アメリカと日本の伝統料理について異文化交流を行いました。また、地域に暮らす外国人に向けて、地域食材を生かしたオリジナル料理レシピを英語版にし、ホームページで紹介しました。日本と外国の食文化理解を深めるために、TPOに合わせた話し方やコミュニケーションの手段を考えられるようになりました。



3. 成果と今後の方向性

(1) 成果

- 地元企業と関連機関との連携による取組の目標達成度（生徒自己評価）
 - ・興味・関心をもって、主体的に研究に取り組む態度が身に付いたと実感している。(86%)
 - ・地場産業の技術力や物づくりの素晴らしさに改めて気付いた。(92%)
 - ・地元岐阜への愛着、誇りをもった。(90%)
 - ・岐阜の文化、産業の素晴らしさに感動し、世界に発信したい意識が強くなった。(100%)
- 岐阜の伝統文化や歴史、産業の学習を通して、岐阜の良さを知り、将来、岐阜で生活する地域社会人として、生活の質の向上を提案できるクリエイターとなり、活躍したいと思う生徒が増えました。また、知識、技術が身に付くにつれ、向上心が更に高まり、一人一人の到達目標設定が上がりました。3年間の研究を通して、課題を見付け、解決策を考えながら学び続けることで到達目標により近付けたと感じています。

(2) 今後の方向性

岐阜県をPRするための商品の開発については、服飾デザイン科は科目「ファッションビジネス」、「ファッションデザイン」、「課題研究」、「ファッション造形」、食物科は科目「調理」、「調理理論」、「公衆衛生」、「食品衛生」、「課題研究」、「調理フランス語」の学習内容に位置付け、研究を継続していきます。

3年間の研究開発終了後も、身に付けた資質や能力に知識・技術を相互に関連させ、より深く学び、理解し、考え、行動することで、生活の質の向上、安全安心な生活、心豊かな生活が提案できる専門的職業人として進化し続けます。

CHANGE SAKURA

～技と心で羽ばたけ グローバルクリエイター育成プロジェクト～

「食のプロフェッショナル」

「ファッションビジネスリーダー」
「グローバルファッションクリエイター」



食物科



服飾デザイン科

目指す生徒像

クリエイターとしての自信と自覚と責任をもち
国際感覚をもったプロフェッショナル

チャレンジ精神

豊かな表現力

高度な知識・技術

高い専門性

確かな創造力

高い感性

日本文化の理解

異文化理解

情報発信力

経済・産業構造の変化

知識・技術等の専門性の向上

- 高度資格取得
- 調理師免許取得
- 各種専門家の講演・講習会
- 国内外の大学・料理系専門学校と連携
- 地域食材の理解
- 食文化理解と伝承
- 企業と協働で商品企画、レシピ開発、店舗経営
- 国際感覚とコミュニケーション能力の育成
- インターンシップ

価値観の多様化の理解

- 高度資格取得
- 海外交流
- 国内外のアパレル系専門学校と連携
- 地場産業理解
- 伝統文化理解
- 新たな価値観の提案、創出
- 素材産地コラボレーション
- 伝統工芸とオリジナル作品のコラボレーション
- 最新ファッションとマーケットリサーチ

企画・提案力の育成

グローバル社会の進展

学校づくりの柱

教科指導の充実、実践・体験的学習の実施
外部関連産業との連携

専門科目の学習

<食物科>

課題研究 調理 食品衛生
公衆衛生 食文化 栄養 食品
調理フランス語 生活産業基礎
生活産業情報 総合調理実習
調理理論

専門科目の学習

<服飾デザイン科>

課題研究 ファッションデザイン
ファッション造形 服飾手芸
ファッションビジネス
生活産業基礎 生活産業情報

高度な技術・もてなしの心 育成

国際感覚・コミュニケーション能力・語学力の育成

1. 事業の概要

本研究は、世界を視野に地域で貢献し、ビジネスを新たに創造・構築できる人材を育成するため、下記の教育プログラムの開発を行うことを目的としています。

- ・職業バカロレアの試験手法、アクティブラーニングを導入した授業により、分析力、思考力、判断力、表現力、専門的な知識や技術・技能を活用・応用する力のある人材を育成する。
- ・グローバルビジネスに関する実践プログラムの開発により、グローバルな視野でビジネス活動を実践できる人材を育成する。
- ・地域貢献プログラムの開発により、地域の課題を考え、地域への貢献に意欲を持ち、行動できる人材を育成する。

2. 具体的・特徴的な実践内容

本校では、職業バカロレアの試験手法を導入した授業（簿記、情報処理、プログラミング）、商品開発（和菓子、紙布、コーヒー）、地域貢献（地域活性化事業、出前授業）、国際交流（TV会議、留学生交流、英語によるプレゼンテーション）、グローバルビジネス（貿易・観光）、外国語によるコミュニケーション（英語・中国語）など様々な分野で研究を進めています。今回の発表では、そのなかから、「職業バカロレア（プログラミング）」、「商品開発」、「地域貢献」、「国際交流」について報告します。

(1) 職業バカロレア（プログラミング）

私たちは、2年生のプログラミングの授業では実際に働くことを想定して、課題を進めました。問題集にあるような穴埋めの問題ではなく、処理結果を考えながらプログラムを書き込む箇所を見つける作業でした。一人で考えるにはとても難しい内容なので、同じグループで意見を出しながら考えて取り組みました。また、ただ単に答えを発表しあうのではなく、なぜそのように考えたのか理由も含めて説明しなくてはならないので、プログラミングという専門的なわかりにくい内容をわかりやすく説明する方法にとっても苦戦しました。プログラムが完成した後は、そのプログラムにあったテストデータの作成や、プログラム内容を正しく伝えるために簡潔に報告をまとめました。最後に実行結果を出力して、プレゼンテーションソフトを利用して、完成したプログラムをまとめて資料にしました。その資料を見ながら、お互いのグループでプログラムの動きや簡潔に書かれているかなどについて評価しました。今年度はその経験を活かし、情報システムの授業でアプリケーションを開発することに挑戦しています。

(2) 商品開発

私たちは2年生の商品開発の授業等で、姉妹校であるマレーシアのコーヒー工場との商品開発を行いました。今年の夏、私たち生徒3名と二人の先生でマレーシアを訪問しました。そして姉妹校提携を結んでいる学校に伺いました。姉妹校訪問ではマレーシアの伝統的な遊びやスポーツを姉妹校の生徒と体験しました。また、学校での1日の過ごし方を教えていただきました。多くの生徒と交流し、有名な建物や生活様式など私たちが知らないたくさんのお話を学ぶことができました。マレーシアの有名な建築物や名所、大型スーパー、イスラームの聖地など様々な場所を回りました。イスラームの聖地では今までに感じたことのない雰囲気を身をもって感じる事ができました。また、カラフルな歴史的な建物や大きな道路標識など日本との違いを見つけることができました。そして11月に中部国際空港で行う本校主催のイベントでの使用を目的に各所でマレーシアを紹介するための動画の撮影をしました。私たちは、マレーシアからコーヒーを輸入するため、名古屋検疫所や名古屋税関、千種保健所に手続きのための事前相談に伺いました。そこで輸入するために気を付けなければならないことや明確にすべきことなどを教えていただきました。そしてそれらを私たちの目で確認するため、実際にマレーシアのコーヒー工場に伺いました。現在はマレーシアのコーヒー工場の方と連絡を取りながら、コーヒーの輸入ができるように頑張っています。

(3) 地域貢献

課題研究の授業で愛知工業大学のゼミナールに参加し、地域活性化について大学生と共同で研究し、実際に地域を活性化させるための事業を計画し、開催しました。この学習では、「地域のことを知ってもらい、実際に来てもらい、交流し、活気ある住みよい、街づくり」をテーマに、以下の4点を重点に取り組みました。

- ① 地域住民の年齢構成、地域にある店舗の利用者層やその特徴、時間帯毎の人の動きなどを調査し、地域の課題・良さを検討する。
- ② 地域のことを知ってもらうために、商業科で学んだ知識を活用して、店舗紹介のポスター作成や地域の情報発信と交流ができるSNSサイトをつくる。
- ③ 住みよい街づくり・地域の魅力の向上のため、地域の住民と協力して「花まちプロジェクト」に取り組む。
- ④ 来てもらい、交流するために、地域住民の方々と協力して夏まつりの運営に携わる。

私たちはこうした学習を通じて、問題を発見する力、異世代の人とコミュニケーションをとる力、課題を解決するために自ら考え・行動する力、商業で学んだ専門的な知識や技術を活用する力などが身に付いたと感じています。また、何よりも地域について愛着をもって考えられるようになったことに自分自身驚いています。

(4) 国際交流（英語によるプレゼンテーション）

私たちは、8月に日本福祉大学で開催される World Youth Meeting 2017 において、姉妹校である高雄高級商業職業学校（台湾）の生徒と協働して、英語によるプレゼンテーションを行いました。この学習は「総合実践」の授業のなかで、プレゼンテーション作成のグループワークで実施されました。大会に参加できない生徒も含めた国際経済科の3年生全員（39名）が英語プレゼンテーションを学びました。ブレインストーミングやKJ法を用いて発表テーマを決定することや、アウトラインをまとめる作業ではマインドマップを活用しました。このような学習は、今までの授業とは違って、大変に新鮮で、またグループで取り組むことの大変さと面白さを感じました。また、姉妹校の生徒との交流では、「台湾の生徒たちは積極的に意見をを出しており、その姿勢に圧倒された」「チームで取り組むことへの姿勢を肌で感じる事ができた」というのが皆の感想です。私たちは、この国際協働活動を通して、多くのことを学び、広い視野を得ることができたと思います。

3. 成果と改善の方向性

職業バカロレアの授業を受けて、職業としてプログラムを組み立てる難しさがわかりました。始めはどこから手を付けてよいかわからず戸惑いましたが、先生から考え方を一通り教えてもらえると、プログラムの組み立て方がわかり、少しずつ考えることが楽しくなりました。また、コンピュータに関わる仕事なので、一人で仕事をするイメージがありましたが、他の生徒とコミュニケーションを取りながら自分の考えを伝えることの難しさに気づかされました。他の授業では生徒同士で共同して作品をつくることは文化祭などの行事ぐらいでしかなく、授業の中でグループになって計画し、話し合いながらプログラムを作り、最後に完成したプログラムをお互いに評価することがとても新鮮に感じました。引き続き3年生の授業の中で、今度は先生のアドバイスなくプログラムを組み立てて、アプリケーションを作りたいと思います。

商品開発の活動を通じて、多くの人と出会い色々な経験をする事ができました。また、課題にぶつかるたびに、私たち自身で考える大切さを学びました。姉妹校との交流では、姉妹校の生徒の語学力の高さに驚きました。また、訪問するまでの移動では英語をもっと勉強しておけばよかったと思いました。今後はもっと学校で学んだことや経験したことを活動に活かしていきたいです。また、継続的に商品開発の活動を行ったり、姉妹校の生徒が日本を訪問したり、私たちがマレーシアを訪問し、交流ができるといいと思います。

地域貢献の授業を通じて、地域の商店や住民の方々と接することで地域に対して愛着が湧き、私たちも地域について考えるようになりました。また、フィールドワークや実習を重ねるごとに、問題を発見する力や主体的に行動・実践する力、商業科で学んだ専門性を応用する力が身に付いていったと感じています。情報処理科の課題研究「地域貢献」を選択した一部の生徒だけでなく、もっと多くの生徒も地域貢献について学習できるようにしてほしいと思っています。

国際交流の授業、特に国際協働活動の学習により、異文化理解、外国語によるコミュニケーション能力、ICT活用能力、創造力、発想力、表現力、国際的な調整力を身に付けるとともに、人間関係を築き、問題解決に取り組むことができるようになったと思います。海外の高校生と一つの目標に向かって物事に取り組む中で、言語や習慣、考え方など日本との様々な違いを肌で感じながら、一つひとつ課題を克服していくという経験ができました。しかし、共通言語である英語を使いコミュニケーションを図ることへの不安は最後まで拭えませんでした。これまで以上に実りある国際交流にするためには、外国語によるコミュニケーション能力を更に向上させる学習や外国の生活や文化を理解する学習を、今まで以上に実施してほしいと思いました。

Think Glocally, Act Glocally. ～世界ハ我市場ナリ～



職業バカロレアとアクティブラーニングによる世界を視野に地域で貢献し、ビジネスを創造・構築できる人材の育成
ワールドバザールの開催



● 職業バカロレア

「思考力」「判断力」「表現力」の育成

● アクティブラーニング

「活用力」「応用力」「創造力」の育成

● ジョブチャレンジ

「職業観」「勤労観」「実践力」の育成

ジョブチャレンジ

2週間程度の長期勤労
実習



職業バカロレア

専門的な知識・技術を活用
して思考・判断・表現する授業



名古屋商業高等学校



商業科

学科間協業

情報処理科

国際経済科

産学連携・高大連携

地元商店街、有松校商工協同組合、SALLYLABEL(株)、名古屋商工会議所、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、名古屋税理士会、愛知大学、愛知工業大学、愛知文教大学、名古屋商科大学、名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校、名古屋文理大学、日本福祉大学、名古屋市立若宮商業高等学校、本校商友会(同窓会)など(順不同)

グローバルコミュニケーション

ビジネスに関する実践的な
英会話・中国語会話の授業



グローバルビジネス

市場調査を基に選定した商品
や開発した商品の輸出入



地域社会・企業・大学

海外・姉妹校・留学生

地域貢献

地元商店街でのイベントや
小中学校での出張授業



商品開発

紙布や有松絞り、3Dプリンタ
などを用いた商品開発



観光PR

外国人向けの名古屋観光
案内パンフレットの作成



国際交流

留学生への日本紹介や海外
でのプレゼン大会への参加



DEEP IN TOKUSHIMA ～徳商版「地域創生」人材育成プロジェクト～

徳島県立徳島商業高等学校

(発表者)

会計情報科 3年 以西花琳 情報処理科 3年 高橋歩睦
 商業科 2年 清水楓生 商業科 1年 清水夏海
 会計情報科 1年 浦西愛音 会計情報科 1年 三好彩加

1. 事業の概要

主な研究目的は、地域のことを深くよく知り (DEEP IN TOKUSHIMA)、地域の魅力を創出できる人材を育てることである。そして、地域社会に貢献するグローバル人材の育成とそのためのモデルプログラムの作成を目指している。



2. 具体的・特徴的な実践内容

学校全体の活動としては、新たな生徒会の委員会として「地域創生委員」を立ち上げた。これにより、商業の諸活動における各クラス、授業におけるリーダー的な生徒の育成に力を入れ、全校生徒における効果を上げはじめています。また、これまで海外や沖縄などで学んできた「観光」「商品開発」のノウハウを牟岐町などと連携し県内で還元する活動を実施している。

・商業科では2年生「商品開発」「マーケティング」「ビジネス経済」の各科目において「地域連携型イベントの企画・開催」、「地域連携型商品開発」に加え、「生徒提案型フェアトレード商品の開発」に取り組んでいる。

・情報処理科では3年生「総合実践」の科目において地域の企業などに対する「Web作成支援」などを引き続き実施し、地域の魅力を創出できる人材等の育成に取り組んでいる。また、2年目の後半から取組をスタートさせた先端映像技術（プロジェクトマップ）に関しては、昨年度から一歩踏み込み、地域を支援できるような映像の作成に挑戦しており、1月に映像を上映する予定である。

・会計情報科では3年生「財務会計Ⅰ」「財務会計Ⅱ」の科目などで「企業の財務諸表分析」、「BATIC講習会の開催と受験」、「徳商デパート各班の財務分析」、「カンボジアの食品加工工場における原価計算」に取り組んでいる。

本校の特徴的な科目としては、3年生の商業科ビジネス経済コースにおいて学校設定科目「観光ビジネス」を設定したこと、マーケティングコース3年生において商品開発の授業を増単位（3年生2単位）したことである。観光ビジネスでは、観光ガイド・商品開発力を身に付けた人材の育成に重点を置いた指導を行っている。また、商品開発においては、一過性（1つのイベント）の商品開発に留まらず、市場に流通させることを目的にした定番商品の企画・開発を目指している。

Glocal プロデューサーの育成については、カンボジアとの交流を活かした学びを継続している。生徒たちはカンボジアにおけるインターンシップの体験や継続的な国際展示会への参加を通じ、国際感覚を備えたリーダーとなりつつある。

事業全体を通し、多くの授業などで「生徒参加型授業」や「プレゼンテーション発表会」を取り入れたことにより「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」の向上に繋がっている。生徒からも「人前で話す事への抵抗感が無くなった」「自分のアイデアを企画にまとめることが出来るようになった」などの感想があがっている。



松本前消費者庁担当大臣視察受入



カンボジア内務省など JICE 視察受入

3. 成果と改善の方向性

大きな効果としては、3 学科とも多くの生徒が地域の企業と関わる機会が得られ、生徒たちが地元企業や地域の抱える問題点を身近なものとして捉えることができるようになった。また、海外の国に対しても興味を示す生徒が増え、様々な場面で積極的な態度が見受けられるようになった。今後の課題は、さらに多くの生徒が国際感覚を身に付けられる機会をどのように増やしていくかということである。短期・中期の留学生や交流生の受け入れなど学校全体でグローバル人材を育てようとする意識を持ち、環境作りに取り組んでいくことが重要である。



フィールド調査



プレゼン発表会



共同商品開発



国際展示会

世界にむけて発信

地域の魅力を創出

地域の研究と学習

Glocal プロデューサーの育成

地域の魅力を世界へ発信できるプロデューサーを、カンボジア、ドイツとの連携を活かし「ビジネス」「財務」「ICT」の切り口で実践的に育てる



観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成

地域の魅力を創出し、プロデュースできる人材を、科目「観光ビジネス」「商品開発」の研究と国内外の観光都市から学び地域に還元することから育てる



地域コンサルタントの育成

地域のことをよく知り、様々な問題に対して柔軟に対応できる人材を「発想法」「聞き方」トレーニングの活用と各学科の専門性を活かして育てる



- ・国際会計基準の研究



- ・国際展示会への参加
- ・海外の観光研究
- ・インバウンドツアーの企画



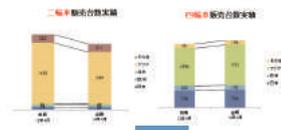
- ・英語版Webの作成支援



実践的なコーディネート能力を持つグローバル人材を育成

企業の財務諸表分析

経営分析（売上台数）



経営分析（収益性の分析）

	スズキ自動車	基準値
ROA	3.0%	5%以上優良
売上高総利益率	27.4%	5%以上優良
売上高営業利益率	6.0%	5%以上優良
売上高経常利益率	6.4%	5%以上優良

レギュラー商品開発



観光プログラムの開発・実施

教科「観光ビジネス」の開講



情報運用の研究 企業映像の作成



- ・財務諸表分析の実践的学習

会計情報科



- ・地域活性化イベントを開催

地域に根ざした商品開発
商業科



- ・Webページ作成支援

地域企業のWebの作成支援・広報の支援
情報処理科

協力機関

国内 団体 企業
教育機関

海外（アジア・ヨーロッパ）

・Google 株式会社・在日カンボジア大使館・徳島県中小企業団体青年中央会・徳島県観光協会・徳島県国際交流協会 など、合計 110 社
・徳島大学・四国大学・徳島文理大学・兵庫県立大学 など

・カンボジア - 日本友好学園・カンボジア教育省・CAMFEBA(カンボジア経団連)・ドイツシェラーベルク職業学校・ベリーデイ社（スウェーデン・前エルゴノミデザイン社）